

概要

12 月 16 日 (木)、ゼミ毎口頭発表会が行われた。1 年秋から進めてきた課題研究の集大成である。また、発表会前には発表会の見学に来校した盛岡一高の方々と本校の 2 学年学術研究委員長とゼミ長が課題研究に関する意見交換を行った。

発表会の感想

物理ゼミ

各班が前回の反省を活かして大変良い発表に仕上げた。模型や CG を用いたり、表情や声を意識したりすることで発表をよりわかりやすくしていた。しかし、リモートでの発表による問題点も多く見つかったので世代間で受け継ぎたい。

数学ゼミ

研究内容を理解するのに時間がかかるという数学ゼミの特徴により、内容が難しい班は質問が出にくい傾向があった。発表で用いられたグラフや言葉など、細かい点に着目した質問が出ていて、発表をしっかり聞いているということがわかった。

生物ゼミ

質疑応答が活発で 1, 2 年生共に研究への理解を深めることができた。研究発表会を通して、「研究の目標」を念頭に置いて活動することや生徒と教員の間で考えを伝達することの重要性を再認識した。

国語ゼミ

初めは ZOOM のトラブルなどもあったがその後はスムーズに進行した。2 年生からの質問は多くなかったが、1 年生からは多くの質問が出て、調査対象を選んだ基準やグラフを用いた理由などに関する質問が見られた。

化学ゼミ

発表では、実験方法がわかりやすく説明されているのが良かった。質疑応答では 1 年生からも質問がたくさん出てきて有意義なものとなった。設定した値や結果の根拠を更に論理的に説明するようにアドバイスももらった。

盛岡一高生との意見交換の様子



情報ゼミ

自分たちのここまでの成果をしっかりと発表することができた。質疑応答では、根拠のない意見を取り入れてしまっているのではないかと指摘や、アプリケーションの容量などの想定外で新鮮な質問があり、有意義なものとなった。

地学ゼミ

発表会には 1 年生や盛岡一高の生徒も参加したので、いつもよりも賑やかな雰囲気で行うことができた。発表内容は以前よりパワーアップしたものが多かった。3 月の SSH 学術研究発表会のゼミ代表に選ばれた班は期待を胸に頑張してほしい。

保体ゼミ

すべての班が前回の発表を生かし、研究を進展させていた。その中でも私が今回の発表で一番着目したのは、質問の質と量だ。予定していた質疑応答の時間を過ぎるほど活発な質問が飛び交い、それに対する回答は一つ一つ広く客観的な視点を持ち合わせた得心なものだった。この発表は、我々の客観的思考力、問いを立てる力ないしは、その上で答えを見いだそうと考える力が向上したことを示した有意義なものであった。

地歴ゼミ

原稿を見ながら発表している人もいたが、パワーポイントを効果的に使っているグループも多かったため、全体的には良い発表だった。質問は2年生以外のものが少なかったが、その中でも1年生からの鋭い指摘があった点もよかった。その質問対応もはっきりしていて、1年間研究を行った成果が出ていた。

英語ゼミ

聴衆を見ながらゆっくりと話す人が増えた。先生からは、自分の使える英語で、自分で考えて発表していた班が多く、パワーポイントが原稿にならないような工夫がみられてよいという意見をいただいた。最後の発表ということもあり緊張していた人も多く見受けられ、英語原稿の丸暗記のようになった班、班員全員が内容を理解して発信している班などかなり差があるように感じた。

家庭ゼミ

1年生も積極的に質問をしていて、活発な意見交換が出来た。パワーポイントの記号にミスがあると指摘されたため3月の発表までに修正し、よりよいものを作成出来るようにしたい。また、研究が浅いように感じられた部分があったため、検証を重ねてこれから研究を深めていきたい。

災害研究ゼミ

最後の発表、そして盛岡一高生と1年生に見られた中での発表ということでも完成度の高いものだった。1年生からの質問も多くこの災害研究ゼミに対して情熱を持って入ってきていることに感動すると共に、どのような発表を行なっていくのがとても楽しみになった。学術研究は大変だったが、達成感があるのに加え、パソコンの技術が向上するととても良いものだったように思う。

公民ゼミ

発表前にリハーサルを行ったおかげで、本番はどの班もつまづくことなく、約1年の研究の成果を十分に発揮することができた。質疑も1年生からの活発なものがあり、来年の公民ゼミに期待できそうであった。担当の先生からは、前回の発表の時よりも深まっていた、成長を感じることができた等のコメントをいただいた。



音楽ゼミ

家庭ゼミと情報ゼミとの合同発表を行なった。発表時間が短く制限されていたため、研究の成果が多くて説明することが出来なかったり、スライドをよく見せることが出来なかったりと悔いが残った。情報を整理し、重要性の低いものを省くなど工夫してまとめたい。発表態度についても声量などの反省点が残った。客観的に聴衆のことを考えて発表する意識が大切だと感じた。



編集後記

大半の班にとって最後の発表会であったが、約1年間の課題研究での成長を感じさせる発表が多かった。一方で、ゼミ代表に選ばれた班は3月の若林文化センターでの発表に向けて再び励んでほしい。また、盛岡一高の方との交流会では課題研究の意義を改めて認識できた。